



安全衛生通信

【令和7年10月号】

北海道労働局



(ガイドラインリーフレット)

土止め先行工法に関するガイドライン

小規模な溝掘削作業

掘削深さが概ね1.5m以上4m以下で、掘削幅が概ね3m以下の溝をほぼ鉛直に掘削する作業をいい、掘削方法は機械掘削又は手堀りのいずれも含む。

土止め先行工法に係る施工計画の策定

小規模な溝掘削作業を行う上下水道等工事を行う場合は、作業箇所等に係る事前調査、土止め計画、作業計画等を作成することにより、土止め先行工法に係る施工計画を策定し、関係労働者に周知しましょう。

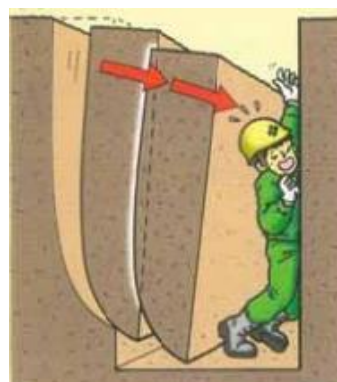
溝崩壊のパターン



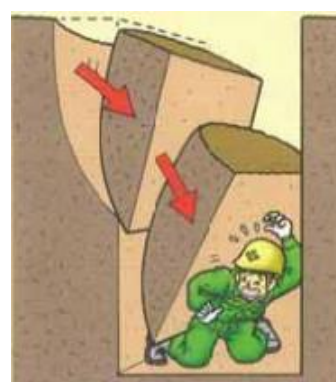
表層すべり



滑動又は円弧すべり



はくり倒壊



落下

建設業では、例年10月～12月に災害が多発する傾向にあることから、本年度も当該期間を「建設工事追い込み期労働災害防止運動」として展開します。（建設安全週間: 10月25日～10月31日）
当該運動の実施要綱やリーフレット等は次の二次元コードからダウンロードできます。



土止め計画のポイント

土止め計画を定める際には、次に留意して作成しましょう。

👉 事前調査の実施（地質、地下水及び地下埋設物等を確認）

👉 下記の目安を参考にして、事前調査結果に基づき土止め
先行工法を選定

👉 選定した工法に適応した溝掘削の作業方法を決定し、次の
事項を明らかにした作業計画を作成

- ① 使用する機械の種類、能力及び必要台数
- ② ①の機械の搬入経路、設置場所及び運行経路
- ③ 機械掘削と同時に手掘りを行う際は、それぞれの作業範囲と作業方法
- ④ ①の機械運転中の立入禁止措置等を行う場合の方法
- ⑤ 溝掘削作業と土止め支保工等の組立て又は解体の作業及び溝内作業関連

👉 仮設備計画

安全に行うために必要な昇降設備、墜落防止設備等の仮設備に関する計画を作成してください。

小規模な溝掘削作業における土止め支保工等の一般的な選定の目安

比較項目 土止め工法の種類	地盤の状態				地下水位		施工の条件			掘削の規模			土止め 先行工 法の適 否
	軟弱	砂質土	粘性土	砂礫土	高い	低い	騒音 振動 (*)	周辺 地盤 の沈下	壁の曲 り剛性	浅い	深い	広い	
軽量鋼矢板工法 (水圧ジャッキ使用)													
(建込み方式)	×	△	◎	×	×	◎	◎	×	○	◎	×	○	適
(打込み方式)	○	○	◎	×	○	◎	×	△	○	◎	○	○	適
建込み簡易土止め工法													
(スライドレール方式)	◎	◎	◎	○	○	◎	◎	△	○	◎	◎	○	適
(縦ばりプレート方式)	◎	◎	◎	○	○	◎	◎	△	○	◎	△	○	適
木矢板工法	×	×	◎	×	×	◎	◎	×	×	○	×	×	否
鋼矢板工法	◎	◎	◎	△	◎	◎	×	○	○	○	◎	○	適
親杭横矢板工法	×	◎	◎	◎	×	◎	×	×	○	○	○	○	否

注：◎＝最良、○＝良、△＝可能、×＝不適

*1：この項目の判定は、採用する工法によって異なる。

この情報の詳細については、管轄の労働基準監督署までお問い合わせください。